



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

クールリブラ

講座

カジのひねもすハイスクール純情派

文 / カジ

中学の頃、野球部だったカジの悲劇

本文中にも書いたが、中学の頃は野球部に入っていたカジ。3年生のキャプテンをほんのちょっと小バカにしたモノマネを習得して、同級生の中で笑いを取っていたのな。ある土曜日の部活のお昼休憩時、1年の教室で同じ部の同級生とお弁当を食べる時に、例のモノマネを披露していたら、それまで笑ってたみんなが急に静かになったのな。んん？って思って振り返ると、キャプテンが鬼の形相。サーセンって軽い感じで謝ったのも仇となり、その後カジだけ毎日特別メニュー。そりゃ辞めるわさ。

就職活動、ボランティア活動、ロビー活動、経済活動、いろいろな活動があるけど、やっぱり部活動な。

【前回までのあらすじ】

入学後、間もなく訪れたオリエンテーション合宿において、自分以外の人間が学年全体の笑いを取るという、非常に残念な形で合宿を終えたカジ少年。これからの高校生活に早くも暗雲が立ち込めるが…

さて、高校といえは熱き青春。熱き青春といえは何がなくとも部活動である。ヤングが県大会や全国大会などの目標に向かって汗と涙を流すというのが高校生の青春なのだ。とことんやっすいイメージだが実際そういうものだよ。

中学校でのカジは野球部に入部したものの、当時3年生のキャプテンのモノマネをしていることが本人にバレ、目を付けられて散々な目に遭った挙句、2年の夏に退部するという苦い経験があり、部活にはトラウマを持っていた。とはいえ、そんなことは昔の話、今は新しい世界で羽ばたく時である。そしてそして、別の高校へ進んだ幼馴染の吉ちゃんこと、吉川くんとする約束をしていた。それは、高校でバドミントン部に入るという約束だった。元々球技が好きだったカジは、バドミントンももちろん大好き。野球よりもむしろライトないわゆる「スナック感覚」でやれるバドミントンは、正直少しゆるめな感じがして、ゆるさを求めるカジにはもって来いっていう勝手なイメージを抱いていた。バドミントン業界の皆さんすみません…

さて、配布された部活動の一覧を見てみると、「アニメ部」とか「自然部」とか、中学と違ってマニアックな部も結構あるぞ。えくと、バドミントンバドミントン…ないじゃん！バドミントン部ないよこれ。マジかあ。これじゃ吉ちゃんとの約束が果たせないよ。一覧表を眺めながらしばらく考え込むカジ。自分が高校生活をエンジョイするためにどの部活に入るべきか、珍しく真剣に考え、2分後に出した結論。

数学部！

マジだ。マジなんだ。今これを書いているリアルカジは、焼酎を飲んでグリグリだが、当時のカジ少年は、マジでこの選択をしたのだ。いや、別に数学部がいかにとかじゃなくて、バドミントン部のつもりが数学部ってね。シャトルが描く放物線が、二次関数のグラフに見えるとか。苦しいか。

